

2025  
MAR  
3月号

Vol.  
**188**

# COOP Calendar



## CONTENTS

2025年度宮城県生協連スケジュール		
役員エッセイ	1	
宮城県生協連監事 佐藤 望		
宮城県生協連の活動	2	
● 宮城県・宮城県生協連主催「2024年度消費生活協同組合役員研修会」		
● 県内4政党との懇談会を開催		
● 小林徳光宮城県副知事との懇談会を開催		
● 「第7次エネルギー基本計画（案）」に対する意見書を提出		
● 「令和7年度宮城県食品衛生監視指導計画（案）」に対する意見書を提出		
● 2024年度生協冬灯油暫定価格変更		
会員生協だより	6	
● みやぎ生活協同組合		
● 生活協同組合あいコープみやぎ		
● みやぎ仙南農業協同組合		
● 宮城教育大学生協同組合		
● 生活協同組合連合会大学生協事業連合		
平和のとりにくみ	9	
消費税率引き上げをやめさせるネットワーク		
宮城の活動	11	
NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動	12	
適格消費者団体 認定NPO法人 消費者市民ネットワークほくの活動	13	
宮城県ユニセフ協会の活動	14	
公益財団法人 みやぎ・環境とくらしネットワーク (MELON) の活動	15	
新聞記事	16	
資料	18	

## 2025年度 宮城県生協連スケジュール

表 題	開催日時	会 場
第56回通常総会	2025年6月17日(火) 10時30分開会	フォレスト仙台2Fフォレストホール
第1回理事会	6月17日(火) 総会終了後	フォレスト仙台2F第5会議室
第2回理事会	9月9日(火) 13時30分開会	フォレスト仙台5F 501号室
第3回理事会	12月16日(火) 13時30分開会	フォレスト仙台5F 501号室
第4回理事会	2026年3月17日(火) 13時30分開会	フォレスト仙台5F 501号室
第5回理事会	5月26日(火) 13時30分開会	フォレスト仙台5F 501号室
宮城県生協組員集会	2025年9月19日(金) 10時00分開会	東京エレクトロンホール宮城



## 「地域まるごと健康づくり」で 人と人がつながる場に

宮城県生協連監事（みやぎ県南医療生協専務理事）

佐藤 望

みやぎ県南医療生活協同組合（以下、県南医療生協）は柴田町に位置し、1995年7月「地域まるごと健康づくり」を掲げ、医療生協として創立しました。現在、クリニック、デイサービスセンター、訪問看護、居宅介護支援の事業活動を行い、地域に根差して医療介護で暮らしを支える事業を展開しています。

県南医療生協の組合員数は5,750人が加入し、誰もが健康で居心地よく暮せるまちづくりを大きなテーマに、地域7つの支部・ブロックが班活動を中心に、健康づくりや誰一人取り残されない社会になることを目指して取り組んでいます。

健康づくりは、班会のなかで健康チェックやフレイル予防体操などの取り組みとあわせて地域に活動を広げてきました。

健康チェックは班会だけでなく、行政区や購買店舗とも連携して活動を広げています。行政区主催のいきいきサークルで、健康チェックや健康講話などを行っています。講話は職員組合員や連携する保険薬局の薬剤師などが専門知識を生かして、健康にまつわる話をしています。生協店舗で行うカフェなどにも合流して、血圧と体脂肪測定を行っています。ひとつの支部では班会とともに地域にも活動を広げ、近隣スーパーの一角を借りて買い物をする方への健康チェックを定期的に実施しています。

健康づくりの一環で「すこしお生活（すこしの塩分ですこやかな生活の略）」をすすめ

ています。減塩活動として、班会など多くの人たちが参加する場で味覚を大切に、「おいしく、たのしく、みんなで減塩」を実践しています。初めて減塩チェックに参加する組合員からは「味がうすい」と大方の感想。自宅で食べる漬物やみそ汁などの「しょっぱさ」を比較しながら交流しあっています。

最後に地元ならではの健康づくり。桜が咲く時季に「お花見ウォーキング」を実施、町内の「一目千本桜」で知られる白石川土手を歩きます。クリニックをスタートし土手を経由して終点の船岡城址公園まで、約5キロを楽しく運動しながら交流を深めています。今年も4月3日に予定しています。

いくつかの活動を紹介しました。「地域まるごと健康づくり」で人と人がつながる場をこれからも大切にして、知恵を出し合い、創意工夫しながら活動を続けていきます。

ぜひ、みなさんもお一緒に！



# 宮城県生協連の活動

## 宮城県・宮城県生協連主催「2024年度消費生活協同組合役員研修会」

1月21日（火）宮城県庁1階101会議室において、宮城県・宮城県生協連主催による「2024年度消費生活協同組合役員研修会」を開催しました。今年度は、くらしと生活の基盤である地域社会において求められている「地域共生社会の推進」について学ぶことにより、生協の事業運営・課題を考える機会としました。県連会員生協など18生協51人の参加がありました。

開会にあたり、宮城県環境生活部消費生活・文化課の遠藤尚志課長から「2025年の国際協同組合年により地域社会において活動がさらに充実したものになることを期待する」、宮城県生協連の冬木勝仁会長理事から「地域共生社会推進実現に向けた取り組みについて学び、生協の役割と課題を考える」との挨拶がありました。

続いて、宮城県保健福祉部社会福祉課の佐藤頭一副参事兼総括課長補佐を講師に、「社会福

祉と地域共生社会の推進について」と題して講演がありました。地域共生社会が何故必要とされるようになったかを理解するために、社会福祉制度の成り立ちと変遷についての説明があり、地域福祉を取り巻く状況と宮城県の現況、地域共生社会の実現の必要性、国の重層的支援体制整備の必要性と概要および社会構造の変化によって生まれた新しい法律である『孤独・孤立対策推進法』についての話がありました。最後に「地域共生は、社会福祉行政の実現を目指すための一つである」と話されました。

その後、宮城県社会福祉協議会の及川一之地域福祉部長から「社会福祉協議会の取組事例報告」について、みやぎ生活協同組合の國久暁常勤理事・生活文化部長から「みやぎ生協の取組事例報告」について、報告がありました。

最後に、宮城県環境生活部消



宮城県環境生活部消費生活・文化課  
遠藤尚志課長の挨拶

費生活・文化課消費者行政班の日下部巧主査より、「令和6年度消費生活協同組合指導検査結果等について」検査の目的、指導検査で確認された事項等についての説明があり、組合員のよりよいくらしのために適正な運営をとる話をされました。

地域共生社会実現が求められる背景及び宮城県における地域共生社会の実現にむけた政策、具体的な取り組みについて学習し、宮城県における地域課題と県の政策を理解し、宮城県民を組合員とする相互扶助組織としての生協の課題を考える機会となりました。



研修会の様子（地域共生社会の推進について）



左から  
宮城県保健福祉部社会福祉課 佐藤頭一副参事兼総括課長補佐  
社会福祉協議会地域福祉部 及川一之部長  
みやぎ生協生活文化部 國久暁部長

# 宮城県生協連の活動

## 県内4政党との懇談会を開催

江陽グランドホテルにおいて、県内4政党の役員と宮城県生協連役員による「2024年度政党懇談会」を開催しました。

宮城県生協連から、①震災復興・自然災害及び地産地消に関する取り組み②安心して暮らせ

る地域づくりにむけた取り組み③物価高騰対策、エネルギー問題、消費者の暮らしを守る取り組みなどについて、野崎和夫専務理事が報告しました。

各政党からは、コメの価格と量、子ども食堂、貧困問題、障

がい者雇用、災害対応、DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展などをはじめ、会員生協や生協連の取り組みへの質問などがあり、有意義な懇談の場となりました。

※開催順に掲載（敬称略）

### 立憲民主党宮城県総支部連合会

2月1日（土）11：00～12：00  
 代表代行・衆議院議員 岡本あき子  
 副代表・衆議院議員 鎌田さゆり  
 副代表・参議院議員 石垣のりこ  
 副代表・衆議院議員 柳沢 剛



### 自由民主党宮城県支部連合会

2月8日（土）9：30～10：30  
 会長代理・前県議会議員 石川光次郎 政調会長・県議会議員 外崎 浩子  
 副会長 飯岡 智 組織本部長・県議会議員 佐々木賢司  
 幹事長・県議会議員 佐々木幸士 事務局長 入野田 博  
 総務会長・県議会議員 中山 耕一



### 公明党宮城県支部

2月8日（土）11：00～12：00  
 代表代行・県議会議員 伊藤 和博  
 幹事長・県議会議員 横山 昇  
 青年局長・県議会議員 大池 康一  
 女性局次長・仙台市議会議員 佐々木真由美



### 日本共産党宮城県委員会

2月8日（土）14：00～15：00  
 参議院議員 いわぶち 友  
 県議会議員 ふなやま由美  
 仙台市議会議員 ふるくぼ和子



### 宮城県生協連

出席者：冬木勝仁会長理事、河野雪子副会長理事、若柳恒太郎副会長理事、野崎和夫専務理事、石川宣子常務理事、渡辺淳子常務理事、菊地由香里理事、高橋千佳理事

# 宮城県生協連の活動

## 小林徳光宮城県副知事との懇談会を開催

2月5日（水）、江陽グランドホテルにおいて、県行政のトップマネジメントの一翼を担う小林徳光<sup>のりみつ</sup>宮城県副知事と宮城県生活協同組合連合会（以下、県生協連）の会員生協役員職員30人で懇談会を開催しました。

開会にあたり、県生協連の冬木勝仁会長理事、続いて小林副知事より挨拶がありました。

次に、6会員生協から活動紹介を行いました。

みやぎ生協の尾川輝敏専務理事から「安心して暮らせる地域づくり、被災地支援、顔とくらしの見える『めぐみ野』」について、生協あいコープみやぎの櫻井洋子理事から「平和と人権問題の取り組み、脱原発・エネルギーシフト活動」について、みやぎ<sup>のぞみ</sup>県南医療生協の佐藤望

専務理事から「誰もが健康で居心地よく暮らせるまちづくり」について、東北大学生協の荒井<sup>ゆう</sup>優<sup>かぎのせいま</sup>常務理事と鍵野清天常務理事から「総代と供に考え、実現した組合員の想いや願いを実現する企画」について、宮城大学生協の秋山<sup>りん</sup>琳学生委員会委員長から「宮城大学生協学生委員会の活動、生協食堂でのリ・リパック回収活動」について、宮城労働者共済生協の松本<sup>ちから</sup>力部長から「防災・減災、子どもの健全育成、環境保全の取り組み」について報告しました。

小林副知事からは、「それぞれの生協毎に様々な取り組みをされていること、そして日頃取り組まれていることが、県民の生活に寄与していることを改めて実感した」と述べられた後、



冬木勝仁会長理事の挨拶

それぞれの生協の取り組みについてコメントをいただきました。

最後に、「県と生協が連携して地域の課題を解決していく事は大変重要なことであり有意義なことだ。今後も様々連携しながら取り組んでいきたいので引き続きよろしくお願ひしたい」と話されました。

生協が県行政と協力しながら、安心して暮らせる地域づくりに向けて活動し、相互扶助組織としての役割を果たすことの重要性を認識する機会となりました。



各生協からの報告について感想を述べられる小林副知事



みやぎ生協尾川専務理事



あいコープみやぎ櫻井理事



みやぎ県南医療生協佐藤専務理事



東北大学生協荒井常務理事



東北大学生協鍵野常務理事



宮城大学生協秋山学生委員長



宮城労済生協松本部長



懇談会の様子



# 宮城県生協連の活動

## 「第7次エネルギー基本計画（案）」に対する意見書を提出

気候変動が生活全般に深刻な影響を与えています。昨今の農作物の高騰もその影響と考えられます。2024年5月から検討されてきた「第7次エネルギー基本計画」の案が示され、12月27日より意見募集が行われました。

宮城県生協連では、主力エネルギー転換・脱炭素化のために、石炭火力発電・原子力発電への依存を減らし、再生可能エネルギーの「主力電源化」、省エネルギー及びエネルギー利用の効率化を政策の中核とすべき意見を提出しました。

東京電力福島第一原子力発電

所の事故からまもなく14年が経過しようとしています。この事故を受けて、第6次計画での「原子力は依存度を可能な限り低減」の文言が、今回は削除されました。福島では今なお、終わりの見えない廃炉作業が続いていること、増え続ける汚染水の処理を行わなければならないことを忘れてはなりません。原子力発電に頼らない再生可能エネルギーを広げる政策への転換を求める立場からの意見も盛り込みました。2002年にエネルギーの「安定供給の確保」「環境への適合」「市場原理の活用」という3つの柱を掲げ、エネル

ギー政策基本法が施行されました。同法の下、長期的で総合的なエネルギー政策を計画的に進めるための「エネルギー基本計画」は、エネルギーをめぐる情勢が日々変化しているために、3年ごとの計画見直しを行っています。

「第7次エネルギー基本計画」では、エネルギーの安定供給や脱炭素化に向けたエネルギー構造転換を、国の経済成長につなげるための政策を出す必要があると考えます。以上の立場から1月26日（日）、宮城県生協連会長理事名で意見書を提出しました。（後掲）

## 「令和7年度宮城県食品衛生監視指導計画（案）」に対する意見書を提出

宮城県では食の安全を確保するため、2月10日（月）～3月10日（月）の期間、食品衛生監視指導計画案について意見募集を行いました。宮城県生協連では、食品衛生監視指導計画案への意見提出は県民の立場に

たった食品の安全確保の取り組みに関する意見を自治体に届ける貴重な機会であり、食品の安全に関するリスクコミュニケーションのひとつと捉え、毎年度、積極的に意見を提出しています。

2月6日（木）、宮城県生協連と消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎは、宮城県環境生活部食と暮らしの安全推進課食品安全班あてに、意見書を提出しました。（後掲）

### 2024年度生協冬灯油暫定価格変更

1月27日（月）配達分から、お任せ給油暫定価格1ℓあたり税込9.0円値上げしました。国の燃料油価格激変緩和補助金の縮小により、卸価格が値上がりした影響での価格変更となりました。

配達期間：2024年9月30日～2025年4月25日

期 間	9 / 30 (月) ~ 1 / 24 (金)	1 / 27 (月) ~ 4 / 25 (金)
お任せ給油価格 (税込)	1 缶18ℓ 2,142円・1 ℓ 119.0円	1 缶18ℓ 2,304円・1 ℓ 128.0円
個缶価格 (税込)	1 缶18ℓ 2,160円・1 ℓ 120.0円	1 缶18ℓ 2,322円・1 ℓ 129.0円



# 会員生協だより

## みやぎ生協

### 能登半島地震・豪雨の被災者支援に取り組んでいます

みやぎ生協では、地震および豪雨被害を受けた能登半島での被災者支援に取り組んでいます。

昨年6～9月にかけて、組合員から寄せていただいた応援メッセージを支援物資とセットにして、NPOリエラ・穴水町社協・コープいしかわへ計3,344個お届けしたほか、11月には日本生協連の呼びかけに応え、能登の組合員家庭へのメッセージ&プレゼント100セットをコープいしかわに贈りました。

また、10月と12月には、コープあおり・いわて生協・コー

プふくしまとの連携と穴水町社協のご協力により、サロン活動を穴水町内4か所で計5回実施。仮設住宅や近隣住民の方など、のべ96人に参加いただきました。

さらに、12月にはサロン活動時に活用する「手作りキット」を作るボランティアに取り組みました。

9月28日～12月20日には「令和6年能登半島豪雨災害支援募金」に取り組み、計4,476,460円（宮城3,656,035円、福島820,425円）の募金が寄せられました。



10月18日  
港町仮設住宅でのサロン活動



12月26日  
「キットづくり」ボランティアの活動

今後も東北の生協や関連団体と連携して、サロン活動などの支援を継続していきます。

(生活文化部 山田尚子)

### 食の学習会「腸と脳の健康革命」 ～認知機能を高める腸内環境への食からのアプローチ～

2月12日（水）フォレスト仙台2階ホールにおいて、仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科の相澤恵美子教授を講師にお迎えし、食の学習会を開催しました。今回の学習会では、腸内環境がなぜ認知症予防に重要なのかを学びました。

様々な研究から腸内細菌の変化が、認知症に大きく関わっていることが分かってきました。健康な腸内環境が認知機能を維持する鍵となっています。

糖分・油もの・アルコールの

摂り過ぎや食物繊維不足は、腸内環境を悪くします。腸内細菌の種類を多くする、炎症を抑える作用のある菌を増やすことが大切です。そのためには、色々なものを日々食べることが大切です。中でも発酵性食物繊維が豊富な食品、食物繊維が豊富な食品を積極的に摂ることが重要です。具体的には「和食」のような食事です。具だくさんの味噌汁や煮物などや、納豆、根菜類、海藻類、きのこ、発酵食品を摂るよう心がけることが大切です。



講師の相澤恵美子教授

腸内環境と認知症予防について、50人を超える会場参加と、オンライン・サテライト参加200人余の多くの方々と学ぶことができました。

無理のない範囲で少しずつ、楽しく腸内環境を整えましょう。

(生活文化部 高橋しおり)

# 会員生協だより

## 生協あいコープみやぎ

### 東日本大震災から14年 あの日と今と未来を考える 「灯りっこはともったか 高橋英雄社長のおはなし会」

東日本大震災の3.11を迎えるたびに、あいコープでは「震災を忘れない」活動を続けてきました。あれから14年、振り返るだけでなく、これから先をどう生きていくのかを考えたい。石巻で被災し、東松島に移転して無添加の練り物を作り続ける高橋徳治商店の高橋英雄社長のおはなし会を1月29日(水)に開催し、34人が日立システムズホールのおはなし会に集いました。

工場を津波で失い、想像を絶

する体験をした高橋社長の「震災発生時に苦しみを共有し自然と生まれた助け合い(災害ユートピア)はやがて消滅し、今は悪い課題ばかりが残っているのではないか、生協という助け合いの仕組みを活かしてその課題を解決するには、生協に関わる一人一人が社会に対する『違和感』を無視せず考え、行動し、隣の人、周囲の人々の心に『灯りっこ』をともしていかななくては」という熱のこもったお話に、生協組合員、職員、生産者とし



震災当時の被害を語る高橋英雄社長



真剣に話を聞く参加者

での役割を果たしていこうと、それぞれが考える時間となりました。

(理事 鈴木真奈美)

## みやぎ仙南農協

### 青年部主催「フェスタinかくだ」

みやぎ仙南農協青年部は、仙南7地区(柴田・村田・川崎・蔵王・白石・角田・丸森)からなる若手農業者を中心に構成されたJA組合員組織です。農業者、非農業者関係なく、地域づくりと仲間づくり活動を展開しています。

青年部員同士の親睦と地域振興を目的に、12月21日(土)角田市のかくだ田園ホールで「フェスタinかくだ」を開催しました。フェスタ当日は青年部員とその家族のほか、地域住民

など約300人が来場しました。

仙台育英学園高等学校野球部の須江航監督の講演、須江監督への質問コーナー、監督とのじゃんけん大会を行いました。また、仙台牛や仙南のお米30kgなど豪華景品が当たるお楽しみ抽選会、焼き鳥や地元で収穫された野菜を販売するプチマルシェ等を開きました。

同青年部の村上利行委員長は、「部員で企画、準備したイベントが、皆さんに喜んでもらえてとても嬉しい」と語りました。



講演後記念撮影をする須江監督



野菜の販売

(くらし相談課 藤原卓弥)



# 会員生協だより

## 宮城教育大学生協

### 学生委員会の新歓期活動

私たち宮城教育大学生協学生委員会 (Team Artist) では、新歓期活動として新入生・受験生を対象にした活動を行なっています。その中でも、「駅案内活動」「プレゼント袋配布活動」「推薦生協オリエンテーション(SSO)」について紹介します。

「駅案内活動」は、受験当日に仙台駅や青葉山駅(大学の最寄り駅)及び駅から大学までの道中で道案内をする活動です。受験生が道に迷わずに会場へ行けるように案内をするとともに、我々学生委員からも応援の声掛けを行ない、受験生を後押しする活動になっています。

「プレゼント袋配布活動」は、試験終了後に会場の出口付近で、合格後に必要になる資料が入ったプレゼント袋を受験生に手渡しする活動です。こちらの活動も、つらい受験を乗り越えた受験生にねぎらいの気持ちをもって関わる活動になっています。

「推薦生協オリエンテーション」は、推薦入試で合格した推薦生を対象に行なう活動で、友だち作りの企画や大学生活を学ぶ企画などがあります。一般選抜の合格者より一足先に、新入生や先輩と交流が生まれる良い機会となっています。



道案内の様子



学生委員会メンバー

2月に2回目となるSSOの開催、一般試験に向けての駅案内活動やプレゼント袋配布活動が続きます。新入生の皆さんの役に立てるようより一層精力的に取り組んでいきます。

(学生委員会 藤原颯真)

## 大学生協事業連合

### 「新卒カレッジ」の取り組み

昨今、学生の就職活動も変化し従来の集団セミナー型から、インターンシップ型や個別メンター型の就職活動が広がりを見せています。

大学生協では2023年から、主に学部4年生、院生向けの新卒カレッジを提案しています。

新卒カレッジは、「当初受けていた業界から幅を広げて違う業界も受けてみたい」「なかなか結果が出なくて悩んでいる

という学生向けに、専任アドバイザーがキャリアカウンセリングや面接対策など

サポートするメンター型の就職支援プログラムです。

実際、内定に繋がっている事例も増えており、参加者からは「企業の見方や面接の練習を通じて、自分に足りない部分を客観的に捉えることができ、向上心が湧いた」「自信の自己紹介・自己PRに対して客観的なフィー



就活の「コツ」や先輩の就活体験談を聞ける！



初めての就活で不安な方に

ドバックを得ることができた」など、新たな気づきにも繋がっています。

今後も変化を正確に捉え、学生自身が将来を考えるきっかけづくりや納得した就職活動ができるように、サポートしたいと思います。(東北地区事業推進部勉学研究・学び支援課課長 佐藤繁)

## みやぎ生協

### 今こそ伝えたい！私の戦争体験&へいわの輪「絵本キャラバン」

12月22日（日）、宮城野区鶴ケ谷市民センターで、鶴ケ谷九条の会が主催する「憲法カフェ」に協力し、「へいわの輪『絵本キャラバン』」の展示と「原爆パネル」を展示しました。60人が参加しました。

当日は、なかなか聞くことができない戦争体験のお話、みやぎ生協で実施した「木村緋紗子さんによる『被爆の証言』」動画視聴、今年度みやぎ生協の「ピースアクションinヒロシマ」派遣に参加した親子による報告

もありました。

会場では、原爆パネル展の前で息をのんで見入る様子や、たくさんの絵本を手にとってじっくり読んでいる姿も多く見られました。

また、みやぎ生協鶴ケ谷店エリアのサークル「絵本の読み聞かせ隊『杜のひょうたん』」による読み聞かせや、鶴ケ谷店コープクラブによる折鶴のアクセサリー作りなどもあり、みやぎ生協鶴ケ谷店エリアの中で、とても有意義な平和の取り組み



『絵本キャラバン』の絵本の展示



「ピースアクションinヒロシマ」参加者からの報告

を実施することができました。  
(生活文化部 佐藤妙子)

## 大学生協東北ブロック

### 「平和学習交流会」

1月18日（土）、大学生協東北ブロック事務局とみやぎ憲法九条の会とで「平和学習交流会」を行いました。東北ブロック事務局からは学生が9人参加し、総勢約20人の世代を超えた会となりました。

「若い世代にどう平和を伝えていけばよいか」と、みやぎ憲法九条の会より相談を受けたことがきっかけで始めたのですが、私たちも大学生活の中では「平和でありたい」と発することが中々できず、また平和について語り合う場面无いため、

双方のニーズが合った形で実施できました。

会では大学生協が、これまで行ってきた平和活動や学生生活実態調査から見える大学生生活の報告を行い、その後は少人数のグループに分かれ「あなたにとっての平和とは何か」「昨今の世界の戦争をどう考えているか」などを意見交換しました。

現在、大学生協が平和活動を行っていることを認知している組合員は、6.7%と過去最低の数値になっています。学生からは「平和に慣れているので困っ



みやぎ憲法九条の会と東北ブロックの学生がグループごとに意見交換する様子

てないのかもしれない」「戦争体験がないから実感がわからないかもしれない」と意見が出ています。そうであればこの会をきっかけに、「現在は平和なのだろうか」と考える時間を大学生協の企画として考えて行きたいと思いました。

(事務局長 柏倉欣弥)

## 核廃絶ネット

### ノーベル平和賞受賞記念

### 「核兵器禁止条約の発効・核兵器廃絶ネットワークみやぎ発足4周年記念イベント」

1月22日（水）、イズミティ21小ホールを会場に、「核兵器禁止条約の発効・核兵器廃絶ネットワークみやぎ発足4周年記念イベント」が開催されました。今回は、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことの報告を兼ねた記念のイベントとなり、120人の来場参加がありました。マスコミ取材も多数あり、核兵器廃絶への関心の高さを感じました。

開会にあたり、核兵器廃絶ネットワークみやぎ（以下、核廃絶ネット）代表で日本被団協理事・宮城県原爆被害者の会会長の木村緋紗子さんから、オスロで行われたノーベル平和賞授賞式参加報告と支援に対するお礼がありました（御礼状後掲）。現地で被爆証言を行ったことと、これまでの運動を誇りに思うという話がありました。続いて、同行した長男の仁紀さんからは、参加された被爆者の方々が受賞を大変喜んでいて、今後被爆2世として活動していきたいとの力強い言葉がありました。

第1部は、第五福竜丸平和協会専務理事で第五福竜丸展示館学芸員の安田和也さんが「被爆80年、福竜丸とともに核なき世界への航海を」と題して講演

を行いました。

「広島・長崎で原爆を使用した人は、その下の様子を見てはいない。被災の様子は被爆者の記憶からのみ知ることができた。占領軍は調査だけで被爆者の治療は行わず、国際的な報道も規制をした。1954年第五福竜丸はビキニ環礁で核実験の被害を受け、これが核実験の禁止・原水爆反対の世論へと繋がった。56年に日本被団協が結成され、援護法制定を求めると国は受忍論を展開した」と話されました。被爆した第五福竜丸の25人の若い乗組員と漁船のたどった歴史、核実験が従事者や住民、世界中に及ぼした甚大な被害について、資料をもとに説明されました。「核兵器のない世界を、力を合わせて作っていく」と強く訴えられました。展示館の第五福竜丸の本体は、被爆した木造船としては唯一現存するものだそうです。

第2部では、チェロの塚野淳一さんとピアノの稲垣達也さんのデュオによる演奏が行われました。今回は、バッハやピアソラなどの名曲や稲垣さんのオリジナル曲など、ソロを含めて10曲が演奏されました。平和や核廃絶への思いも込められ、温かい音色が会場全体を包み込



ノーベル平和賞授賞式の報告をする  
木村緋紗子代表と仁紀さん



講師の第五福竜丸平和協会専務理事  
安田和也さん



演奏会の様子  
チェロの塚野淳一さん・ピアノの稲垣達也さん

み、参加者を魅了しました。

閉会挨拶を事務局の佐々木ゆきえさんが行い、核廃絶ネットの発足の経緯、今年の被爆80年に向けての取り組み、核廃絶運動への決意と署名への協力を訴えて終了しました。

（常務理事 石川宣子）

## 消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動

消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城(略称:消費税ネット)は、今以上の消費税率引き上げに反対する一点で集まった、宮城県内の生活者・事業者の個人・団体を組織されたネットワークです。会員数は、団体33、個人63です。(2024年4月現在)

### 講演会「和尚から見た日本経済・税金のお話」

1月30日(木)、フォレスト仙台第2フォレストホールをメイン会場としてオンライン併用にて、消費税ネット主催による講演会を開催しました。生協、消費者団体、宮商連などの関係者、事業者、一般市民などオンライン視聴35人を含め、110人が参加しました。

開会にあたり、三戸部尚一代表世話人(宮城県商工団体連合会会長)から、「昨年の総選挙で消費税問題を公約に掲げた候補者が多かった。今回の国会で争点にしてほしいし、物の売買やサービスにかかる消費税が増えることについて、声を上げることが大切だ」との挨拶がありました。

その後、当ネットワークの世話人である曹洞宗金剛寶山輪王寺住職の日置道隆(どうりゅう)和尚を講師に、『和尚から見た日本経済・税金のお話』と題してご講演いただきました。

講演は、何故かという気づき



会場の様子

や表面を見るだけではなくおかしいことをおかしいと言うことが大切、という言葉から始まりました。「経済」は「経世済民」(世を治めて民を救う)から来た言葉で、これが政治の目的である。仏の教えによる衆生済度(民を救い、あらゆるものを良い方向に導くこと)と同じである、と話されました。

バブル崩壊後に何故衰退してきたのかは政府の経済政策の結果で、実質賃金も上らず貧困化が進んで、弱者が苦しんでいる。他の先進国と比べて政府がお金を使わなかったために、成長できなかった。国の借金があるという理由のために、緊縮財政をし、国民が増税を受け入れ、さらに国の安全保障や国民の命も脅かしている。地方自治体への交付金も減らされ、公共事業費も減らされ、国土を弱体化している。気候変動による災害に対するインフラ整備や教育にも投資が行われず、農業予算も増えないために食料自給率も下がるだけ。予算を削ることだけを政府が考えている。政府がお金を使えば、資金は民間に流れて、経済成長につながる。国の安全安心こそが、未



開会挨拶をする  
三戸部尚一代表世話人



講師の輪王寺住職  
日置道隆和尚

来への贈り物になる。経済が縮小すれば、会社の売上げが減り、給料も上がらず、お金は使われないというスパイラルに陥る。政府がお金を使わなければならない。税金は財源ではなく、お金の巡りを良くするためのもので、国債が実際の財源である、と話を締めくくられました。参加者からは分かりやすい話だったとの感想をいただきました。

消費税がどうして生まれて、大きな負担になっているのか、どのような税金の使い方や在り方が良いのかを考える機会となった学習講演会でした。

野崎和夫事務局長(宮城県生協連専務理事)の閉会挨拶で終了しました。

(事務局 石川宣子)

消費税ネット

〒981-0933仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F  
TEL 022-276-5162・FAX 022-276-5160 URL <https://kenren.miyagi.coop/vat/>  
Eメール [kenren@miyagi.coop](mailto:kenren@miyagi.coop)

# NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動

介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ(略称:介護・福祉ネットみやぎ)は、良質な介護・福祉サービスの提供と健全な事業運営のため活動しているネットワーク組織です。会員数:正会員団体17、個人正会員18、団体賛助会員3、個人賛助会員67(2024年6月現在)

## 国へ「2024年介護報酬の再改定と 介護保険制度の抜本見直しを求める要望書」を提出

「介護の社会化」をめざし、2000年度より施行された介護保険制度は、24年が経過しました。介護保険制度は制度改定のたびに、介護保険料が上がり、利用者の自己負担が増えるなど、これまで政府が進めてきた給付削減・負担増の見直しは、利用者・家族に深刻な介護困難・生活困難をもたらしています。

一方、介護事業者の多くは、この間の介護報酬等の抑制、物価高騰の中で大変厳しい経営状況となり、倒産件数は過去最高水準を推移しています。慢性的な人手不足は社会問題となっており、サービス継続のためには、経営安定と介護従事者の抜本的な処遇改善が急がれます。

事業者が利用者(要介護者又

は要支援者)に介護サービスを提供した場合に、その対価として事業者に対して支払われる2024年度の介護報酬改定はプラス改定となりましたが、介護職員と全産業平均との月約7万円の賃金格差を埋めるには程遠い内容であり、介護事業所の経営に困難をもたらしている物価上昇分をカバーすることもできない不十分な改定です。

さらに、訪問介護の報酬が引き下げられたことで、地域で最も身近な小規模の訪問介護事業所が過去最多の倒産・廃業に追い込まれる事態が生じており、各地で不安と怒りの声が噴出し続けています。

また、介護現場の人手不足は非常に深刻で、ヘルパーの有効

求人倍率が15倍を超えるなど、このままでは介護の担い手がいなくなり、介護保険制度そのものが崩壊しかねません。将来にわたり国民にとって不可欠なサービスとして、介護サービスを受けることができる仕組みづくりは急務です。

介護・福祉ネットみやぎでは、2025年度の予算編成に向けて訪問介護の基本報酬引き下げを撤回し、介護報酬全体的大幅な底上げを図る再改定を求め、2月27日(木)付けで、内閣総理大臣をはじめ関係大臣等に「2024年介護報酬の再改定と介護保険制度の抜本見直しを求める要望書」を提出しました。(後掲)

(事務局長 渡辺淳子)

### 要望項目

- 要望1.** 訪問介護の基本報酬の引き下げを撤回し、介護報酬全体的大幅な底上げを図る再改定を至急行って下さい。その際はサービスの利用に支障が生じないよう、利用料負担の軽減などの対策を講じることも併せて要望します。拡大する訪問介護事業所空白自治体の訪問介護サービスの提供実態調査を速やかに行うこと。
- 要望2.** 引き続き議論が進められようとしている利用料2割負担の対象者の拡大、ケアプランの有料化、要介護1・2保険給付外し(総合事業への移行)など、介護保険の利用に重大な困難をもたらす新たな「制度見直し検討」を中止すること。
- 要望3.** 社会保障費を大幅に増やし、介護保険財政の国庫負担割合を大幅に引き上げることで費用負担の軽減、サービスの拡充など介護保険制度の抜本的な見直しを図ること。また、全額国庫負担により、すべての介護従事者の賃金を全産業平均まで早急に引き上げること。社会保障の充実のため、国のあらゆる無駄な歳出を見直し財源を確保すること。

NPO法人介護・福祉  
ネットワークみやぎ

〒981-0933仙台市青葉区柏木1-2-45フォレスト仙台5F  
TEL 022-276-5202・FAX 022-276-5205  
Eメール sn.mkaigonet2@todock.coop URL <https://kaigonet-miyagi.jp>

## 適格消費者団体 認定NPO法人 消費者市民ネットとうほくの活動

消費者市民ネットとうほく(略称:ネットとうほく)は、消費者被害の未然・拡大防止及び救済のため、消費者や消費者団体・関係諸機関・消費者問題専門家等と連携し、消費者被害の調査・研究・情報収集、是正申入れ等の活動を行っている内閣総理大臣認定の適格消費者団体です。

### 2024年度「第5回ネットとうほく消費者被害事例ラボ」 ～電子書籍配信サービスの法的問題(中途版)～

1月16日(木)「第5回消費者被害事例ラボ」が開催され、オンラインを含む17人が参加しました。「電子書籍配信サービスの法的問題」をテーマに、岩手県立大学総合政策学部の窪幸治教授が解説しました。

電子書籍には、書籍データを固定化したDVD等のほか、インターネットを介してデバイスにダウンロードするものや、ダウンロードせずにストリーミングで再生して閲覧する方式があります。

配信サービスは、データを消費者に公衆送信し、ダウンロードもしくはストリーミングで再生させるものです。電子配信サービスは、インターネットを介した取引で、通信販売取引(特定商取引法2条2項の「郵便等」

に該当)であり契約自由が妥当するため、許諾の範囲も自由に決められています。ただ、著作権は独占的権利であり細分化も認められています。利用規約の検討では、配信サービス契約は定型約款規制や消費者契約法の不当条項規制の対象となっています。

デジタル技術、インターネット等の情報通信の高度化により種々のデータが流通し、複製、改変してユーザーが発信することが容易となっているため問題も生じています。例えば、スクリーンショットのSNSへの投稿やブログ等でリンク・URLを貼り、SNSにおいてリツイート・リポストする行為は基本的に他者の著作権が発生しているコンテンツを誘導する行為となりま



岩手県立大学窪幸治教授

す。窪教授は「消費者が電子書籍配信サービスを契約し、その後何らかの理由で契約トラブルになったときに、はじめて被害を知ることが問題」と解説されました。

その後の意見交換では、「経年劣化する紙と劣化しない媒体では、どちらに価値があるのか」「購入と言いながら実際は利用権で消費者を誤認しているのではないか」「電子書籍の名称を変えたらどうか」など、様々な意見が出されました。

(事務局 金野倫子)

### ホームページをリニューアルしました！

2月17日より、消費者市民ネットとうほくのホームページをリニューアルしました。より使いやすいホームページを目指し、デザインを見直し新機能も追加しました。スマートフォンやタブレットにも対応しています。

あなたの周りの消費者トラブルについて情報をお寄せください。

これからも消費者被害の防止ならびに情報提供に努めて参ります。



ホームページのQRコードはコチラ

認定NPO法人消費者  
市民ネットとうほく

〒981-0933仙台市青葉区柏木1-2-40 ブライトシティ柏木703号室  
TEL 022-727-9123・FAX 022-739-7477

Eメール [shiminnet-tohoku@triton.ocn.ne.jp](mailto:shiminnet-tohoku@triton.ocn.ne.jp) URL <https://www.shiminnet-tohoku.com/>

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。宮城県ユニセフ協会は「協力協定」を締結し、県を代表するユニセフ活動の拠点として、ユニセフの広報・募金活動を実施しています。会員数：一般158団体7(2024年12月)

## 「ユニセフ出前授業」

### 聖ドミニコ学院小学校

12月2日(月)、「ユニセフハンド・イン・ハンド(募金活動)」の事前学習として「水」や「子どもの権利条約」について、1年生～3年生の115人と4年生～6年生の110人に分けて学習しました。

ユニセフの活動支援から「ビタミンAカプセル」、栄養治療食の「プランピー・ナッツ」、「上腕計測メジャー」、マラリアを媒介する蚊から身を守るための「蚊帳」やネパールの「水がめ」など、見たり触れたりしながら困難な状況にいる子どもたちが多くいることを学習しました。

後日、「ハンド・イン・ハンド」で集まった募金を、当協会に届けていただきました。

### 仙台市立北仙台小学校

1月24日(金)、5年生の3クラスと保護者が、「ユニセフクイズ」「DVDの視聴」、各クラスの代表が「水がめ運び」と「蚊帳の体験」を行い、世界の子どもたちが抱えている問題とユニセフの支援活動について学習しました。

最後に、ユニセフのポスター「すべての子どもに  を。」  の中に入る言葉を考えました。子どもたちからは、「支援」「エール」「愛」「恵み」「笑顔」「安心」などの意見がありました。保護者からは、「水汲みに時間がかかり、学校に行けない子どもたちの現状と栄養不良の子どもたちの姿は、5年生の子どもたちにも親にも



聖ドミニコ学院小学校



北仙台小学校(蚊帳体験の様子)

衝撃でした」「今回の学習会で得た学びを行動につなげていくために、ひとりひとりが広い視野で世界を見て、自分で考えて行動できる人になって欲しい」などの感想をいただきました。

(事務局 八島真美)

## みやぎ生協文化会館ウイズ1階にユニセフのコーナーができました



ユニセフの資料やパンフレットなどを設置した「情報コーナー」ができました！ご来館の際は、ぜひお立ち寄りください。

## ユニセフ ガザ人道危機緊急募金

ガザ地区では200万人以上の人々が、安全な水や衛生設備、食料、保健医療ケアなどが極度に不足している状態にあります。そしてその半数は子どもです。今後も引き続き「ガザ人道危機緊急募金」にご協力をお願いします。

郵便局(ゆうちょ銀行)

振替口座：00190-5-31000

口座名義：公益財団法人日本ユニセフ協会

通信欄に「ガザ」と明記してください。

明記がない場合は一般募金になります。

振込用紙を希望される方は宮城県ユニセフ協会にご連絡ください。

みやぎ・環境とくらしネットワーク (MELON) は、緑と水と食をとおして暮らしを考え、地球と地球環境の保全に寄与するために、多くの市民、知識人、協同組合、企業、団体で作られた環境NGOです。会員数：個人374、法人53、任意団体8 (2025年2月現在)

## 「小学生が防災リュックづくり」～環境学習防災編・仙台市立八木山小学校～

MELONでは2020度よりエフピコ環境基金の助成を受けて、「SDGs教育プロジェクト」を実施しています。これは、要望のあった学校に継続して環境学習支援を行い、授業を受けた子どもたちの行動に結びつくことをめざすものです。

12月16日(月)、八木山小学校5年生を対象に出前授業を行い、みやぎ生協の理事と組合員、職員ら6人が講師として学校を訪問しました。

児童たちは、東日本大震災が発生した際のみやぎ生協八木山店の様子や、災害に備えて食品を多めに買って置き、消費した分を買い足していくローリングストックの考え方を学びました。日常生活の中で、防災のために備蓄した食品を定期的に食べて買い足すことを繰り返すことにより、常に食糧の備蓄を通じて防災の意識を持ち続けることができ、いざという時に賞味期限が切れていて食べられないという事態も防ぐことができます。

さらに1月22日(水)には、児童たちと共に八木山店を訪れ、店舗で自分の作成したリストを見ながら、防災商品を探す校外学習を行いました。

当日は、TBC東北放送の取材もあり、ニュースの中で報道されることで、より幅広い啓発効果が得られました。

参加した児童からは、「意外と賞味期限が長いものがあったので、災害対策のコーナーも設置されていてとても良いと思った」「家族の安全を守るように、ちゃんと防災リュックを作っていきたい」などの感想が寄せられました。

頭で考えるだけでなく、実際にお店で実物を探すことで、ど

んな商品がどんな形で売られているのかも知ることができ、防災リュックがどのくらいの大きさ、重さになるのかもわかるので、机上の勉強では得られない新たな発見もあったようです。

今後も教室での環境学習だけではなく、現場に出て実感できるような体験学習の機会をすることで子どもたちに生きた知識を身につけてもらいたいと思います。

(事務局長 小林幸司)



災害対策コーナーでお目当ての商品を探す



児童にアドバイスするみやぎ生協職員



TVクルーに撮影されながら商品を探す児童たち



防災グッズに入れる物の例

■ 会員生協

みやぎ生活協同組合  
生活協同組合あいコープみやぎ  
松島医療生活協同組合  
みやぎ県南医療生活協同組合  
東北大学生生活協同組合  
東北学院大学生生活協同組合  
宮城教育大学生生活協同組合  
宮城大学生生活協同組合  
東北工業大学生生活協同組合  
尚綱学院大学生生活協同組合  
宮城学院生活協同組合  
大学生生活協同組合  
みやぎインターカレッジコープ  
生活協同組合連合会大学生協事業連合  
(東北地区)  
みやぎ仙南農業協同組合  
宮城労働者共済生活協同組合  
宮城県高齢者生活協同組合

発行

宮城県生活協同組合連合会

会長理事 冬木 勝仁

〒981-0933

宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45

フォレスト仙台5F

TEL 022-276-5162 FAX 022-276-5160

ホームページ <https://kenren.miyagi.coop/>

業務時間：土・日・祝祭日を除く月曜日～金曜日  
午前9時30分～午後5時まで